

1. 各種犯罪被害防止のポイント

【強盗被害防止のポイント】

- 夜間の一人歩きは避け、信頼できるタクシー等の交通機関を利用する。
- 知らない人とのタクシーの相乗りは避ける。運転手以外に人が乗っているタクシーは利用しない。
- 昼夜を問わず、できるだけ人通りの多い通りを利用する。
- 可能な限り複数で行動する。
- モンゴル人が集団にいる場合には、むやみに近づかない。
- 自宅の玄関ドアを開ける際は、必ず上下階に不審者がいないかを確認する。不審者がいる場合は、決してドアを開けない。
- 過度に華美な服装や装飾品の着用は避ける。
- どうしても被害が防げない場合もある。その際は身の安全を第一に考え、決して無理な抵抗はしない。
- 後日の捜査に備え、できるだけ犯人の身体的特徴を覚えておく。
- 犯人は徒歩で逃走する可能性が大。被害に遭ったらすぐに警察への通報と大使館への連絡を。

【スリ被害防止のポイント】

- 当地に来てから日の浅い方(当地の実情を把握されていない方)だけでなく滞在が長期にわたる方(当地の生活に慣れた方)も、特に注意。
- 人が多く集まる場所のみならず、外出時はどこでも注意が必要！
- 外部から容易に触れられる箇所、背中に背負うリュックサック等に貴重品を入れて携行することは厳禁！
- 拳動不審者や集団を見たらスリと疑え！決して近づかないこと。
- 貴重品や多額の現金は持ち歩かない。
- 他人の面前では財布を見せたり現金を数えたりしない。
- バッグなどを所持する場合、以下の要領で所持するよう心掛ける。
 - ・ 手提げバッグを持ち歩く場合は、ひったくりに遭わないよう、脇の下に抱えるようにして所持する。
 - ・ ウエストポーチを腰に着用する場合は、ポーチが体の前面に位置するよう着用する。

【置き引き被害防止のポイント】

- 貴重品は可能な限り信頼できる場所(ホテルや職場の金庫等)に預け、持ち歩かない。
- 例え短時間であっても、手荷物等を放置しない。決して目を離さない。体から離さない。
- 周囲に人がいない場合であっても、決して油断しない。

【車上狙い・自動車の部品盗難などの被害防止のポイント】

- 長時間の路上駐車は避け、監視者を置くか、管理人のいる駐車場を利用する。
- 車外から見える場所に荷物を放置しない。
- スモークフィルム、盗難防止装置等を活用する。
- 警察では指紋を採取する等の捜査はせず、犯人検挙は期待できない。被害品は返ってこない可能性大。

【暴行・傷害被害防止のポイント】

- 当地では飲酒の際に事件が多く発生している。昼夜を問わず、酔っぱらいには決して近づかない。
- 特に夏期は路上生活者から金銭を要求されるケースが散見される。子供であっても決して油断しないこと。
- 当地の労働者等が利用する酒場の利用は避ける。
- 飲酒の際は誤解を生むような言動に注意。

【住居・ホテル等における被害防止のポイント】

- 防犯設備の整った住居を選定する。(ガードマンによる常駐警備付がベスト。最低でも共用部分に不審者が侵入できないよう建物の入口にもロックが付いた物件を選定することが望ましい。)
- 地方行きのバスが発着するバス停やザハなど、人が多く集まる場所付近の物件は避けたほうが無難。
- 玄関や窓の防犯設備は嚴重なほどよいのは当然。複数かつ堅固な施

錠設備、鉄格子があることが望ましい。

- 前に住人がいた物件に入居する場合は、必ず鍵を交換させる。
- 1階、最上階は避けた方が無難。
- たとえ親しい知人でも、安易に合い鍵を預けない。
- 長期間不在にする場合は、知人や大家等に定期的に鍵が破壊されていないか等の確認を依頼するのも一つの方法。
- 外国人が居住していると外部からわからないような工夫を。
- ホテル等に滞在中は、たとえ短時間の外出などでも必ず施錠する。
貴重品は、ホテルのフロント等に預ける。
- パスポートの盗難、紛失には要注意。
(万が一パスポートを紛失したり、盗難にあった場合、大使館においてパスポートの再発給又は帰国のための渡航書の発給手続が必要となり、所要の日数がかかります。)

【交通事故防止のポイント】

- 歩行者用信号が「青」であっても、車両は歩行者の横断に関係なく突進して来る場合もあるので、注意が必要。
- 万一、交通事故の当事者となった場合は、車を動かさずに直ちに警察に通報すること。警察官の指示を受けずに事故車両を動かすと処罰の対象になるので注意が必要。
- パッシングは日本とは逆で「自分が先に行く」という意味になるので、十分な注意が必要。
- 運転者及び歩行者ともに、信号無視、急な飛び出し、無理な割り込み等、交通マナーが悪いため、注意が必要。
- 地方で事故が発生した場合、電波通信網が充実していないため携帯電話で連絡を取ることや、交通量が少ないことから通りすがりの車に救助を求めることも困難。
地方に行かれる場合は、不測の事態に備え、衛星電話の携行(レンタルが可能)や、単独車両での移動を避け、複数車両での移動が好ましい。
- 特に地方の医療機関が整備されていないため、万一地方で交通事故等により重大な怪我等をした場合、地方の病院等で医療行為を受けることは困難であり、首都ウランバートルまで移送の上、治療を受ける必要がある。この場合、舗装されていない道路が多いことから陸路での移送が困難なことも多く、ヘリコプター等をチャーターする必要があることもあるので、移送に対応する保険への加入等の備えが必要。

2. 防犯のヒント

当館より、在留邦人の皆様に防犯に関するアンケートをお願いしましたところ、たくさんのご意見をお寄せいただきました。日頃の防犯対策のヒントとして参考とさせていただきます。

【防犯対策全般で気をつけていること】

- ☆ 2人連れで何かを尋ねられたら注意。(盗まれる可能性あり)
- ☆ 満員のバスや人混みでは、すりに注意。
- ☆ 同伴者と日本語で会話をしながら歩くと(特に夜間)、人目を引き危険だと思
う。
- ☆ すり被害は、モンゴルに来て以降、半年の間がほとんどであった。防犯知識
が足りなかったと思う。
- ☆ 服装はある程度モンゴルに合わせ、日本的なものにならないようにしたほう
がよいのではないか。
- ☆ 被害に遭ってからは、ナイフでカバンを切られても直ぐに盗られないように、
貴重品を小さいバックに入れ、それをリュックに入れ紐を付けている。
- ☆ 一人ではなくモンゴル人と一緒に歩く。できるだけ振り返る。
- ☆ 現金を多く持っていることを見せないよう気を配る。
- ☆ 現金は分散して持つ。
- ☆ 携帯電話は、ポケットではなく紐等で結束して身につける。
- ☆ 背後に人がついたら、先に行かせる。
- ☆ 空港では、常時2～3人のすりが様子を伺いながら行ったり来たりしている。
- ☆ 危険な場所には近づかない。
- ☆ 多額の現金は持ち歩かない。カードと現金は別に携行。
- ☆ ザハでは、モンゴル人もバッグを体の前で押さえる等自衛をしている。
- ☆ 明らかに高級品が入っていると分かる買物袋は持ち歩かない。
- ☆ 被害に遭ったときは、大声で泥棒(デーレムチン)と叫ぶ。
- ☆ 外出する時は、余計な物は持たず、現金も必要な分だけ持つようにしている。
- ☆ 変にキョロキョロせず、堂々と歩く。
- ☆ 時々振り向いたりして、周囲に注意する。
- ☆ いつも同じ換金所を利用しないようにする。
- ☆ 多人数の時こそ注意が散漫になり、目立ちやすいということにも注意する必
要がある。

【住居における防犯対策で気をつけていること】

- ☆ 自宅の扉を開ける時が肝心。周りに知らない人がいないことを十分に確認する。
- ☆ 鍵を開ける時は、もたもたしない。
- ☆ 戸外の電球が切れていたら、すすんで自分で交換するよう心がけている。
- ☆ 近隣住民や掃除人とも挨拶を交わすよう心がけている。
- ☆ 門番や掃除人に気軽に声をかけることで、ホームレスが入り込まないよう気を配ってくれている。
- ☆ 少しの外出でも、家や事務所には鍵をかける。泥棒はいつも徘徊している。
- ☆ 空き巣被害に遭ったとき、扉が破壊された際は大きな音が出たはずなのに、近隣住民は無関心であった。大家に何らかの方策を義務付けた方が良いのでは。
- ☆ セキュリティを最優先して住居を選ぶ。
- ☆ 常に施錠の確認を怠らない。

【防犯意識を高めるための自己啓発】

- ☆ 情報を入力するだけでなく、対策を実行することが大切。
- ☆ 色々と対策を考えていただいて感謝しているが、最終的には自分で気をつけるしかないと思っている。注意を怠らないよう心がけたい。
- ☆ 外出時は、常に狙われているとの意識が必要。
- ☆ モンゴルでは、1万トグログは大金。
- ☆ 予期せぬ被害に遭った場合は抵抗しない。まずは命を守るため、無抵抗主義を貫くことが重要。
- ☆ ここは外国であるという意識を持つこと。
- ☆ 滞在が長くなると、当初は気をつけていたものが、気の緩みで「このくらいはいいだろう、大丈夫だろう。」という気になりがち。いつも気を緩めることなく生活する必要がある。
- ☆ モンゴルの現状を認識し、いかに、被害に遭わないようにするかというセルフディフェンスの意識を持ち続けるかがポイント。
- ☆ タクシーに乗る時、自宅に入る時などは、予め携帯電話に友人等の番号を出しておき、何かあったら直ぐに電話できるようにしている。
- ☆ ここでは、自分は外国人であるということを常に忘れないこと。
- ☆ 安全はセルフディフェンスが基本で、誰かに守ってもらおうと思っていること自体、認識が甘い。自分なりの自己防衛策を考え実行している。
- ☆ 自分の情報を外部に漏らさないよう通訳や運転手等に指導する。
- ☆ 安全に関わることは、どんなに小さな事でも手を抜かない。小さな気の緩みの積み重ねが大きな事件・事故に繋がるので、日常生活から細かな事に気をつける。
- ☆ 邦人間での情報交換が大切。絶えず危機意識を持つ。
- ☆ 自分で毎朝安全チェック。(どこに何を入れ、どう注意するか等。心のチェックが必要。)

【移動時における防犯対策で気をつけていること】

- ☆ タクシーに乗る際、相手を見て選ぶ。
- ☆ 夜は流しのタクシーには乗らない。
- ☆ できるだけ白タクには乗らない。運転手が気分を害し、怒鳴られたことがある。

【交通安全上気をつけていること】

- ☆ 最近では赤信号でもスピードを出して走り抜ける車が急増。横断歩道では信号ではなく車を見る。十分に注意が必要。
- ☆ 道路を横断する時、右・左の確認を声を出して行う。

【その他】

- ☆ たとえ少額でも、現金の貸し借りはトラブルの元。
- ☆ 酒の飲み過ぎは厳禁。